

中学校社会科における 思考力育成を目指した 単元計画フォーマットの開発と評価

— マルザーノ・タキノミーの「認知システム」に着目して —

学籍番号 169978

氏名 椿 いずみ

大学院主指導教員 寺嶋 浩介

1. 研究の背景と目的

「社会科は暗記科目」というイメージを持っている人は多い。この課題を克服するためには、語句や事象について暗記するだけでは解決できないような問題を提示し、「どのような資料を見れば良いのか」や「どういう手順で考えれば良いのか」などの思考力を身に付けさせる必要がある。また、教育現場の課題やこれからの社会で生きていくための能力を育成するためには、問題に対応するための方法や解決の仕方、自ら進んで考えようとする姿勢を身に付けさせる必要がある。これらの基本となるのは、「どういう手順で考えれば良いのか」や「何をすべきなのか」などについて考えられるような「思考力」である。以上のことから、本研究は「思考力」を軸に筆者が作成した単元計画フォーマットに基づいた授業づくりとその評価を行うことを目的としている。単元計画フォーマットは、R. J. マルザーノによる教育目標分類学の「認知システム」を参考に作成し、活用することで新任教師や多忙な教師でも授業設計をスムーズに行えるようにすることを目指した。

2. 現状と研究の手立て

本研究の対象は、中学1年生（40名×2クラス）と中学校2年生（40名×2クラス）である。授業内容は社会科の地理的分野で、単元は「オセアニア州」と「中国・四国地方」の実践を例とする。研究全体の流れは、「①フォーマット開発前に授業を実施する（本稿で取り上げるのはオセアニア州と中国・四国地方の実践）。」、「②①で実践した授業の成果と課題を踏まえてフォーマットを開発する。」、「③フォーマット開発後に授業を実施する。」、「④フォーマット開発前後の授業を比較し、フォーマットの効果を見る。」、「⑤フォーマットを使用する際の留意点について説明する。」である。

3. フォーマットの開発

フォーマットを開発する前の授業実践では、思考力の育成を目指すにあたり、思考力の成果をみることや、評価の根拠を提示することの難しさが分かった。それを踏まえて、フォーマットでは、評価することが難しい目標を認知システムに落とし込んで行動目標として表せるようにした。

実際に使用したフォーマットは、図1の通りである。フォーマットを活用しながら、次の手順で授業を設計することで具体的な計画案を設計することができる。9つの手順は「①指導要領の中で授業内容にあたる部分を読みポイントを押さえる」、「②教科書を読み重要な語句や習得すべき内容を確認する」、「③単元全体の目標を決める」、「④各時間の目標を決める」、「⑤認知システムの表に従って目標を整理する」、「⑥評価の方法を決める」、「⑦単元に関わる内容の文献や資料を読みフォーマットに書き出し課題案を複数出す」、「⑧最終課題(授業の軸となる課題)を決める」、

